

梅鶯仏教壮年会報

第160号
2019年
10月26日

報恩講

※法輪寺報恩講
と併修

十一月九日

(土)

法味

夢の世に
夢に夢見る
我が夢を
夢さめよとの
親の呼び声
≪大悲招喚≫

法輪寺前住職隆法遺作



グッドマナーグッドライフ

北村秀雄

梅鶯仏教の秋本番を迎え、恒例の
す。毎年の森会長、法輪寺ご住職
様。田中薫様、名所旧跡を訪ねる
晴。上。旅。心より御礼を申
し。車。2台。田中薫様、北村正隆
様の名運転のお陰で11名が2
日間。楽しい旅を堪能しました。
さ。ぞ。お疲れに。な。れた。と。存。じ。ま
す。初。日。感謝を。申し。上げ。ま。す。
別。院。へ。出。発。し。て。本。願。寺。名。古。屋
の。歴。史。を。説。明。頂。き。ま。し。た。
上。人。の。第。十。三。子。蓮。淳。師。が。伊。勢。蓮。如
名。郡。長。島。杉。江。に。創。立。さ。れ。た。願。証
寺。を。起。源。と。さ。れ。て。い。ま。す。
伊。良。湖。フ。エ。リ。乗。り。場。へ。道。中
キ。ヤ。ベ。ツ。の。大。産。地。の。植。え。付。け。が
最。盛。期。で。整。然。な。光。景。に。は。驚。き。ま
した。

鳥羽までは約50分の船旅で
便利だが、伊勢湾を横断して何と
た。宿の鳥羽エキシブの別邸へ到
着し入浴後鳥羽のお食事処「華
月」の海老を満喫しました。こ
れだけの海老を満喫するこ
とは初めてです。
翌日、ホテルの出発時に驚き
と。感。心。し。た。こ。と。が。あ。り。ま。し。た。
そ。れ。は。ホ。テ。ル。の。従。業。員。が。通。勤。時
に。お。客。様。の。車。に。向。か。い。立。ち。止
り。全。員。が。感。謝。の。一。礼。を。さ。れ。て
い。る。こ。と。で。す。い。ろ。い。ろ。な。ホ。テ
ル。の。旅。館。で。泊。ま。る。こ。と。が。あ。り。ま
した。洗。練。さ。れ。て。い。る。の。は。初。め。で
す。そ。の。後、山道を登り伊勢志摩
国立公園の英虞湾を一望できる
高台へ、全員が歩いて登り島々
の景観に見とれていました。
帰りに津市の真宗高田派本山
専修寺へ参拝。本願寺と同様は
建物で本堂の御影堂・如来堂は
国宝とのことです。
無事に帰ってきました。ご縁が

題材法話

浄土真宗のみ教え ⑪ 「如来の呼び声」

(1)

* 拝読「浄土真宗のみ教え」の16頁をお読み下さい。

われ称え
われ聞くなれど
南無阿弥陀
つれてゆくぞの
親のよび声

私が「南無阿弥陀仏」

とお念仏を称えます。
そのお念仏は「阿弥陀
様の方から私を呼んでく
ださる方です。」

「えっ、そんな馬鹿
な！私が称えるお念仏は
私が称えているのであ
り、私の声じゃないです
か」という反論が聞か
れ、きこえませんでした。

お念仏の「今般の味
で、あり、今般の味



陀仏)のみ教えについ
て、簡単におさらいをし
ます。

○ 仏教・浄土真宗

は、すべからず原因があつて結
果が生じる(因果の道
理)と教え、そのことを
素直に受け入れないと説
きます。

廻(世界)の苦しみ(迷いの輪
は、ありのままを受け入
れることのできる悟りの
境地に到る(覚者)しか
なく、様々の仏さま方が
私たちに覚者と成ること
を、すすめて下さるのだ
が、悲しきかな私達には
どの方法をもつてしても
かなわぬので、それ
ほど悩みの深重な
す。

そのあらゆる
から見放された
唯一の救われ
示し、ただま
阿弥陀さまの
阿彌陀



まかせよ」という救いで
あり、私達が覚者となる
ためのすべての仕組みが
用意されているのです。
用意されていることを私達
に伝えるために、誰に
も伝えることのできる
「南無阿弥陀仏」という
名号を与えて下さつてい
ます。

○ 子の母を呼ぶ声

でも何故私の口から出
るお念仏(称名)が阿弥陀
様の呼び声なのでしょ
うか？

わつてみます。関係で味
する赤ちゃん、初めて口
「まーま」などのお母さ
んの名前です。

ぶ、この赤ん坊の母
があるから、母親に
母にお礼を言いたい
いからでもありまし



た母親のわが子にかけ
ても「まーま」と呼ば
せているのです。母
子の母を呼ぶ声は、母
を呼んでおられるもの
母の存在そのもので

す。漢坂田組長が組報に
寄せられた法話の一文で
す。『孫が「お母さん」
と、いつたので、母親が
「なにどうしたの」とい
うと、「うん、何でもない
い。呼んでみただけ」と
いうので、大笑いをして
たが、まさには阿弥陀
陀さまと私達のお念仏
に、あることばの掛け合
で、あり、我々が阿弥陀
を呼ぶことばで安心して
任せ、している姿だと思
ました。』

は、阿弥陀如来の救いの
は、阿弥陀如来の救いの
で、下さる、この私に届
です。拝読本にある親鸞聖人